

肺炎の原因菌について ～肺炎球菌の恐怖～

臨床検査技師 田端 篤

肺炎

風邪をこじらせたものが肺炎ではありません。風邪は鼻や喉、気管支が侵される上気道の炎症ですが、肺炎は肺が冒される、いわゆる、肺胞に炎症が起こっている状態です。風邪はほとんどウイルスで起きますが、肺炎は**肺炎球菌**、**インフルエンザ菌**、**マイコプラズマ**などにより引き起こされるものが殆どです。またウイルス性肺炎、誤えん性肺炎、レジオネラ菌による肺炎、真菌等のカビによる肺炎等もありそれぞれ症状、治療法が異なるので注意が必要です。

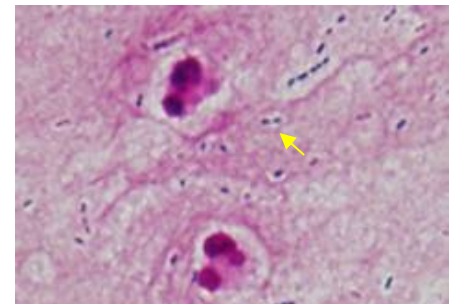
肺炎は日本人の死因第4位で、原因の第1位が肺炎球菌という細菌感染によるものです。

肺炎球菌とは

肺炎球菌は健常者の鼻や喉に住み着いている細菌で、免疫力があれば悪さをしません。しかし脾臓摘出後や糖尿病、がん、ステロイド使用中といった免疫機能が落ちて抵抗力の弱い状況や、インフルエンザの感染直後等では肺炎球菌が増殖して肺炎を起こすことがあります。この菌は肺炎のほかに副鼻腔炎、中耳炎、時に敗血症、髄膜炎といった重篤な疾病の原因となり、いったん肺炎・敗血症・髄膜炎になると強い病原性を発揮し、死亡や障害を残す割合が高くなります。

検査

- 喀痰検査：喀痰の染色及び培養をして原因菌を調べます。
- 尿検査：尿中の肺炎球菌抗原を調べます。
- 胸のレントゲン検査：高齢者では熱や咳、胸痛等の症状があまり無く聴診器による音も異常ないのに、レントゲン検査で肺炎と診断されることもあるので注意が必要です。



喀痰を染めた写真：黒く染まっている粒々が肺炎球菌です

予防

肺炎球菌は一人ひとりが高い確立で持っている菌です。インフルエンザに罹った高齢者の4人に1人は肺炎に罹ると言われています。インフルエンザ等の気道感染症の後に感染するため、うがいや手洗い、歯磨きをきちんと行い、口腔内を清潔に保ちましょう。また、肺炎球菌ワクチンによる予防が効果的です。



肺炎球菌の電子顕微鏡写真

肺炎球菌ワクチン

成人用肺炎球菌ワクチン（商品名：ニューモバックス NP® Pneumovax NP）が開発され、米国では65歳以上の65%が接種しています。日本では年々接種者が増えていますが、まだ知名度が低く接種率は低いようです。一般には65歳以上の高齢者、呼吸器・心臓の慢性病の人、糖尿病の人、腎機能不全の人、脾臓摘出した人、肝臓障害のある人に予防接種が勧められますが、肺炎球菌による肺炎が心配な人は何歳でも接種したほうが良いとされています。1回の接種で5年間程度免疫が持続するとされています。

肺炎球菌は普段は気道などに住みつき、悪さをしない菌ですが、いったん罹患すると大変恐ろしい感染症の原因菌になります。基礎疾患がある方は、肺炎球菌の予防接種について主治医へご相談されるようお勧めいたします。当院にて¥8,180（健康保険が効かず自費扱い）にて実施しております。